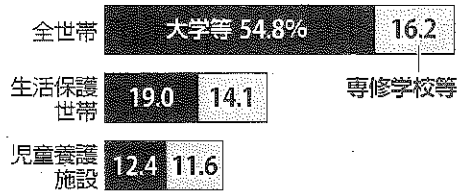


児童養護施設の子どもの大学等進学率(現役)は低い



(全世帯は学校基本調査。ほかは厚生労働省調べ)

提言は長野県立の上田高校3年、荒川未菜子さん(17)、埼玉県立久喜北陽高校2年、藤本翔さん(17)ら8人が作った。いずれも親族との離別や死別、虐待など様々な事情を抱え、児童養護施設から高校に通っている。

8人は「教育支援グローバル基金」(理事長＝橋本大二郎・元高知県知事)の奨学生として「社会のために何ができるか」を考える人材育成プ

入所の高校生ら

児童養護施設で暮らす高校生が、子どもの貧困解消に向けた提言「つながりコミュニティプロジェクト」をまとめた。他の施設の子どもたちや、支援活動に携わるNPO法人、企業といった外部との交流を進め、大学進学など将来の可能性を広げることで「脱貧困」を図る内容だ。「つながり」を作るきっかけとして、施設の子どもたちと、支援する大人たちが気軽に参加できる運動会やキャンプの開催を求めている。

養護施設から「脱貧困」提言



同じ境遇にある若者の支援策を話し合う荒川さん(中央)たち(7月28日、東京都渋谷区の津田塾大学で)

プログラムに参加、提言はこの一環として取り組んだ。

7月末には超党派の国会議員で作る「子どもの貧困対策推進議員連盟」や経済界の関係者らを前に提言内容を発表。出席者からは「プロジェクトを応援したい」「今日、皆さんとつながらせていただいていたよかった」などの声が上がった。

提言作成にあたって8人は東京都内で2泊3日の合宿を行った。この際の議論は児童養護施設で暮らす子どもたちの厳しい表情を浮き彫りにするものだった。

NPOや企業と交流 進学などへ道

まず指摘されたのは情報の格差と不足の問題だ。「他の施設の友達から聞いて初めて部活動に奨励金を受けられる制度を知った」「情報を知らないことで多くのチャンスを逃している」という発言が相次いだ。経済的な支援策が用意されている情報が行き渡らず、施設によって認知度に違いが生じているようだ。

大学や専門学校への現役進学率は71.0%(2017年度学校基本調査)だが、児童養護施設では24.0%(16年厚生労働省調べ)にとどまる。合宿では、「『うちの施設から4年制大学を卒業できた人はいない。途中で挫折して借金を抱えてしまっ』と職員さんに言われた」など、進学が現実的な選択肢になりにくい現状も語られた。

今回の提言について藤本さんは「児童養護施設のことを、少しずつでも、より多くの人たちに伝えたいと強く思った」と振り返る。

来春の大学進学を目指し、将来は国内外で社会的な支援に携わりたいという荒川さんは「様々な人と知り合えたことで将来の可能性が広がり、現実的にもなった。私自身が夢を実現することで、施設の子どもたちに『こういうこともできるんだ』と思ってもらえればうれしい」と話している。

(編集委員・渡辺嘉久)